



## Merry Christmas

### [今月の聖書]

「暗やみの中に歩んでいた民は大いなる光を見た。暗黒の地に住んでいた人々の上に光が照った。」 (イザヤ 9:2)

なぜなら、神の約束はことごとく、彼において「しかり」となったからである。だから、わたしたちは、彼によって「アアメン」と唱えて、神に栄光を帰するのである。あなたがたと共にわたしたちを、キリストのうちに堅くささえ、油をそそいで下さったのは、神である。神はまた、わたしたちに証印をおし、その保証として、わたしたちの心に御霊を賜ったのである。(Ⅱコリント 1:20-22)

イエスは、また人々に語ってこう言われた、「わたしは世の光である。わたしに従って来る者は、やみのうちを歩くことがなく、命の光をもつであろう」。(ヨハネ 8:12)

「わたしたちが神を愛したのではなく、神がわたしたちを愛して下さって、わたしたちの罪のためにあがないの供え物として、御子をおつかわしになった。ここに愛がある。愛する者たちよ。神がこのようにわたしたちを愛して下さったのであるから、わたしたちも互に愛し合うべきである。神を見た者は、まだひとりもない。もしわたしたちが互に愛し合うなら、神はわたしたちのうちにいまし、神の愛がわたしたちのうちに全うされるのである。」

(Ⅰヨハネ 4:10-12)

「しかし主に向く時には、そのおおいを取り除かれる。主は霊である。そして、主の霊のあるところには、自由がある。わたしたちはみな、顔おおいなしに、主の栄光を鏡に映すように見つつ、栄光から栄光へと、主と同じ姿に変えられていく。これは霊なる主の働きによるのである。」(Ⅱコリント 3:16-18)

### メリークリスマス 2018!

ともに、クリスマスをお祝いできますことを心から嬉しく思います。災害の多い1年でした。悲しい出来事も起こりました。世界は荒れています。人の心がすさんでいます。しかしベツレヘムの飼い葉おけの中に生まれてくださったイエス・キリストによって、慰められ、希望を持つことができます。暗闇を感じれば感じるほど、イエスキリストの光は輝きます。クリスマスのメッセージは、「約束の成就」といっても過言ではありません。旧約聖書の神は、世界の救い主を到来させ、新約聖書の世界を開かれました。神の約束は必ず成就します。個人に対しても、国家に対しても、世界に対しても、約束は成就します。この救いの約束が成就するということが、神の愛の証なのです。ですからクリスマスは神の愛の証なのです。決して裏切ることのない神はあなたを愛しています。そのまま信じ、受け入れましょう。それがクリスマスの喜びです。神の祝福が豊かにありますようにお祈りいたします。

小田 彰

### (お知らせ)

#### \* 地区集会のご案内

12月19日(水) 11:00 水曜礼拝、14:00 ジョイコーラス礼拝 (自由が丘チャペル)

\* 12月11日(火) 19:00 東日本大震災復興支援超教派一致祈祷会 (淀橋教会)

\* 2019年1月1日(火) 13:30 自由が丘チャペル元日礼拝新年メッセージ「神力待望」イザヤ 40:27-31

◎今年のライトハウスの働きのために、お祈りとご協力を賜り、心から感謝いたします。

新年の上に、神の祝福をお祈りいたします。

十二月二十五日

「その名はインマヌエルと呼ばれるであろう。これは、「神われらと共にいます」という意味である。」

マターノ二十三

数年前「もしキリストが生まれなかったならば」と題した珍しいクリスマス・カードが出版された。これは「もしわたしが来なかったならば」というキリストの言葉に基づいたものであった。そのカードは一人の牧師がクリスマスの朝、その書齋で短い眠りに落ちた時、キリストがお出でにならなかった世界を夢見たのである。

彼はその夢の中で家中を見廻したが、煖炉の上には一足の小さい靴下もなく、クリスマスの鐘、ひいらぎの枝、慰めたもうキリスト、わたしたちを喜ばせまた救いたもうキリストを発見しなかった。彼は屋外に出て町を歩いたが、天をさしてそびえ立った尖塔をもつ教会もなかった。彼は帰って来て書齋に腰をおろしたが、キリストに関するあらゆる書籍は失せていた。



ドアのベルが鳴って一人の使いが、彼に、貧しい死にかかっている母を訪ねてくれと願った。彼は泣きじゃくっているその使いの子供と一所に、急いでその家に入った。彼はすわって「わたしはあなたを慰める言葉を持っていません」と言った。彼は聖書をあけて、よく知っている神の約束を探した。しかし聖書はマラキ書が一番終りになっていて、福音書も希望も約束もなく、彼はただ頭を垂れて絶望のどん底にある母と共に泣くばかりであった。

二日の後、彼は彼女の棺の側に立って葬式を司ったが、そこには慰めのメッセージも、栄光ある復活も、開かれた天もなかった。ただあるものは「塵は塵に、灰は灰に」ということと、永遠の訣別だけであった。牧師はついに「キリストがこなかった」ことを明白に認め、悲しい夢の中で涙を流して、いたく泣いた。

彼は愕然として目がさめたが、賛美と歓喜の大なる叫びが彼の唇からほとばしった。彼は近くにある彼の教会でうたう合唱をきいたからである。

おお なんじ忠信なる者よ歓喜と勝利をもて来れ  
おお 汝ら来れベツレヘムに来れ  
来りて天使たちの王として生れたまいしお方を見よ  
いざ われら主なるキリストを拝しまつらん

「彼は来りたもうた」。きょうわたしたちは喜び楽しもう。「見よ、すべての民に与えられる大きな喜びを、あなたがたに伝える。きょうダビデの町に、あなたがたのために救い主がお生れになった。」(ルカ二・十)という天使の布告を記憶しよう。

主は祝福を溢れしめんとて来りたもう  
のろいは遠くはなれて見いだし得ず

願わくはわたしたちの心が、ほむべきクリスマスの日を知らない異教の地にある人々にまで届き得んことを。「あなたがたは去って、肥えたものを食べ、甘いものを飲みなさい。その備えのないものには分けてやりなさい。」

(ネハ八ノ十)

荒野の泉

C・E・カウマン夫人著  
山崎亭治訳

